

塚本閣治と今泉正路 ～ 映画「Mount Zao」・「白魔は招く」と 蔵王の樹氷の切手・絵葉書～

山形大学学術研究院・山形大学樹氷火山総合研究所 柳澤文孝

1. 映画「Mount Zao」と「白魔は招く」について

平成19年に行われた山形国際ドキュメンタリー映画祭において塚本閣治監督・今泉正路撮影の映画「Mount Zao (蔵王山)」が公開されて大きな話題となりました。同映画は国際映画祭で優勝し、そのあと、来日したアーノルド・ファンク監督に見せたことで、蔵王にファンク撮影隊が送られることになったとされてきました。

平成20年に出版された環境保全17号において、映画「Mount Zao (蔵王山)」の別版かもしれないものを見つけたことを「塚本閣治監督の「Mount Zao (蔵王山)」について」との表題で報告しましたが、同映画の位置づけは不明でした。

平成30年になり、コーボルト・ヒュッテ・ブーフの昭和11年3月19日に「今泉正路（東京鉄道省）・三井高索（東京）・藤村敬（東京）・清水丈典（秩父）・柴崎高陽（上田）昨年2月「白魔は招く」を撮影に来たのも此のヒュッテ今度又白魔に招かれて来たが樹氷が先日の雨のため落ちて終わって少々ヒカン今日朝少し日が照り出したので高湯を出たが又ガスに包まれて風も相当（約7m）で今日は撮影出来ないので二日位又此のヒュッテにお世話になる高湯青年団の方に五六名出場してもらう可く一所に来たが今日は一先づ引上げ明日又此のヒュッテに来る約束である。…」との記載を見つけました（図1）。映画「Mount Zao (蔵王山)」は当初、別のタイトルで撮影されていた可能も考えられたことから、映画撮影の前後について調査を行いました。

蔵王における映画の撮影は昭和10年2月に行われた（伊東五郎 蔵王五十年の歩みとスキーの発達）。その後、塚本版（表題不明）と今泉版（白

魔は招く）の2つの映画が公開されました（山と溪谷（図2）、キネマ旬報（図3）、婦人文藝、日本映画情報システムなど）。公開時期は昭和10年3月頃から5月頃です。あらすじから見て、内容はほぼいっしょです。同時期に類似した2つの映画が存在していたことで問題となったとの記録は残っていません。また、その件について言及した文書も見つかっていません。

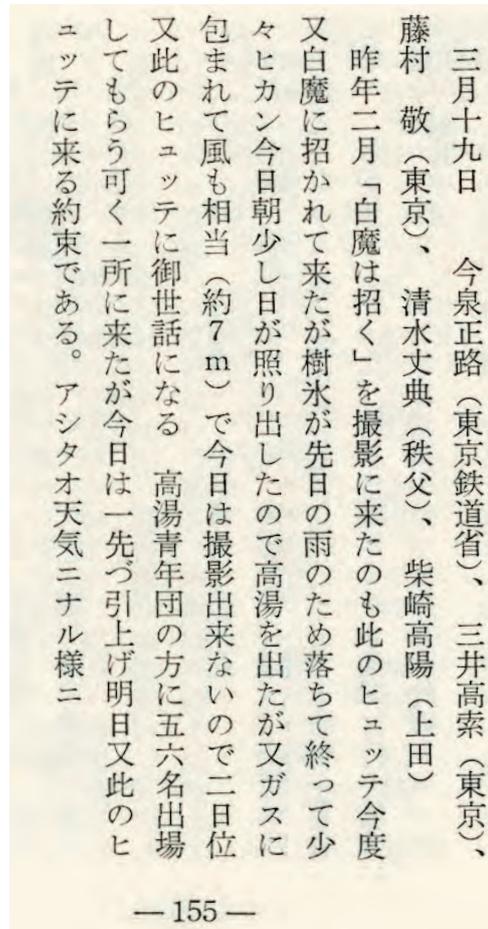


図1 コーボルト・ヒュッテ・ブーフの昭和11年3月19日

なお、塚本は昭和26年に「白魔に追はれて（蔵王山）」という表題の写真を公開しています。一般に「白魔」という用語は大雪・なだれ・吹雪等に対して使われており、樹氷に対して使われている例は今泉・塚本を除くと少数です。これらから、塚本と今泉の間の強い協力関係が示唆されます。

昭和11年2月、塚本は来日したアーノルド・ファンク監督に二十数本の山岳・スキー映画を見せています。これが契機となって「日本スキー発達史（圓谷英二監督）」の撮影隊が蔵王に送られることになりました（山と溪谷）。映画を見せたことに対して非難するむきもあつたようですが、

塚本はこれを一蹴しています（山と溪谷）。公開当時、塚本は蔵王の映画を山・小鳥・海底・富士山・白鳥などといっしょに公開していることから、自然科学映画の一つとして扱っていたと考えられます。また、映画を鑑賞した人の手記には「蔵王の樹氷の映画」というのみで映画のタイトルは記録されていません。一方、アーノルド・ファンク監督が蔵王に撮影隊を送る事になったことを考えると、塚本の蔵王の映画はよほど印象的だったのであろうと考えられます。塚本氏は、アーノルド・ファンク監督との対談をきっかけとして蔵王の映画を国際映画祭に出品することになったと考えられます。



図2 山と溪谷 1935年 映画の頁

Mount Zao (蔵王山) は英語の字幕がつけられ、昭和11年11月にロンドンで開催されたアマチュア映画協会主催の国際映画競技会に出品され、優勝しました。優勝の報は、昭和12年2月に吉田駐英大使より伝えられたが、優勝カップは国外持ち出し禁止のため優勝カップの写真のみが塚本監督に届けられました (アサヒカメラ)。当時、フィルムは船便で送ったと考えられます。このことから、11月の国際映画競技会に出品するためには、8月頃にはイギリスに送られたと推定されます。

以上から、昭和10年2月に今泉正路と塚本閣治の二人で蔵王で撮影が行われた。同じ撮影フィルムから、昭和10年春には今泉正路監督で日本語字

幕付きの「白魔は招く」が日本で公開され、昭和11年秋には塚本閣治監督で英語字幕付きの「Mt. Zao」がイギリスで公開されたこととなります。

「Mt.Zao」は「白魔は招く」の英語版といってもよいでしょう。

環境保全17号で映画「Mount Zao (蔵王山)」の別版かもしれないものを見つけましたが、この映画は「白魔は招く」でした。なお、「Mount Zao (蔵王山)」と「白魔は招く」はともにNHKアーカイブスに納められていますが、「白魔は招く」についてはNHKが使うのみとの公開条件が付いていることから、一般に公開されることはありません。

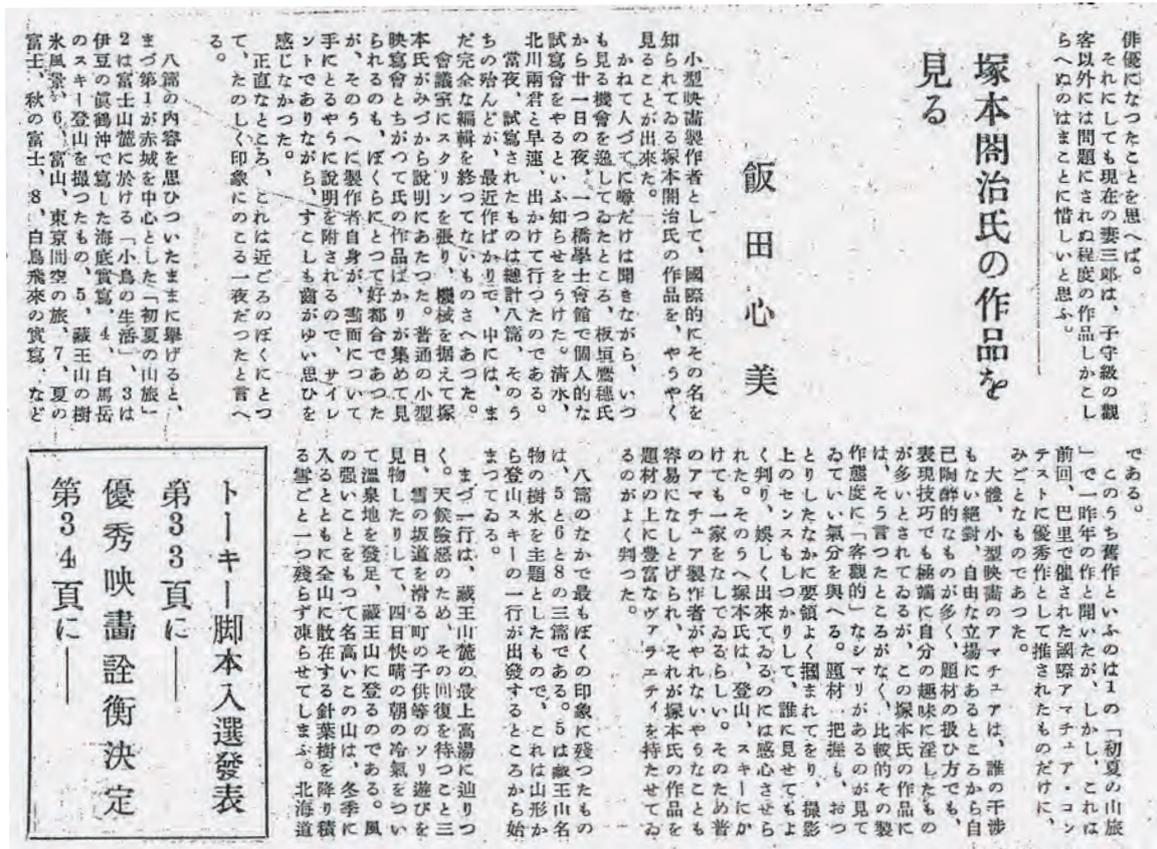


図3 キネマ旬報 1935年 塚本閣治氏の作品を見る

2. 蔵王の樹氷の切手と絵葉書について

逓信省は昭和26年2月に8円と24円の蔵王山の切手を発行しています(図4、図6)。図案は共に「樹氷とスキーヤー」で、8円切手は昭和22年に堀修一氏が、24円切手は塚本閣治氏が昭和10年に撮影した写真をもとに図案化されたとされています。

これに対して、高山英夫氏(こうやまひでお: 大正から昭和初期に山形高等学校の事務官をしていた)は「この記念切手の写真原画は撮影となっているが人物2人は前者は寒河江幸雄氏 後者は小生である。いつ、写されたものかわからない。ざんげ坂の樹氷地帯のもので、或いは佐藤定男君の原版か。佐藤君とはよく一緒に蔵王にでかけたので」とのメモが残されています(高山文夫 蔵王花心 2013年)(図9)。そこで、写真について調査を行いました。

8円切手と同じ構図の写真は、戦後に出版された堀修一撮影と記載された絵葉書集から見つかりました(図5)。一方、24円切手と同じ構図の写真をアサヒカメラ昭和11年2月号から見つかりました(図7)。同写真は昭和11年1月にアサヒカ

メラが開催した「冬山とスキー写真展覧会」に出品されたもので、蔵王山樹氷群(塚本閣治)と記載されています。

なお、塚本閣治氏が撮影したと同じ被写体がほぼ同じ構図であるが、アングルが異なる写真が絵葉書から見つかりました(図8)。撮影者は今泉正路氏です。影の位置も同じであることから、2つの写真はほぼ同時に撮影されたと推定されます。塚本閣治氏(塚本商会・国際観光局嘱託)と今泉正路氏(東京鉄道局)は映画の撮影のため昭和10年2月に蔵王を訪れていることから、スチール写真として、2人がほぼ同じ場所で同時に同じ被写体の撮影を行っていたと考えられます。立ち位置としては、蔵王山に向かって塚本閣治氏が右手側で今泉正路氏が左手側となります。今泉正路氏が撮影した写真は山形蔵王・宮城蔵王等の絵葉書に使われています。今泉正路撮影と記された絵葉書や絵葉書集も出版されていることから、蔵王とは古くから(昭和7年以前から?)交流があり、絵葉書への写真の提供なども行われていたと考えられます。



図5 絵葉書(堀修一)



図4 切手(ザング坂下の樹氷)



図6 切手(蔵王中腹の樹氷)

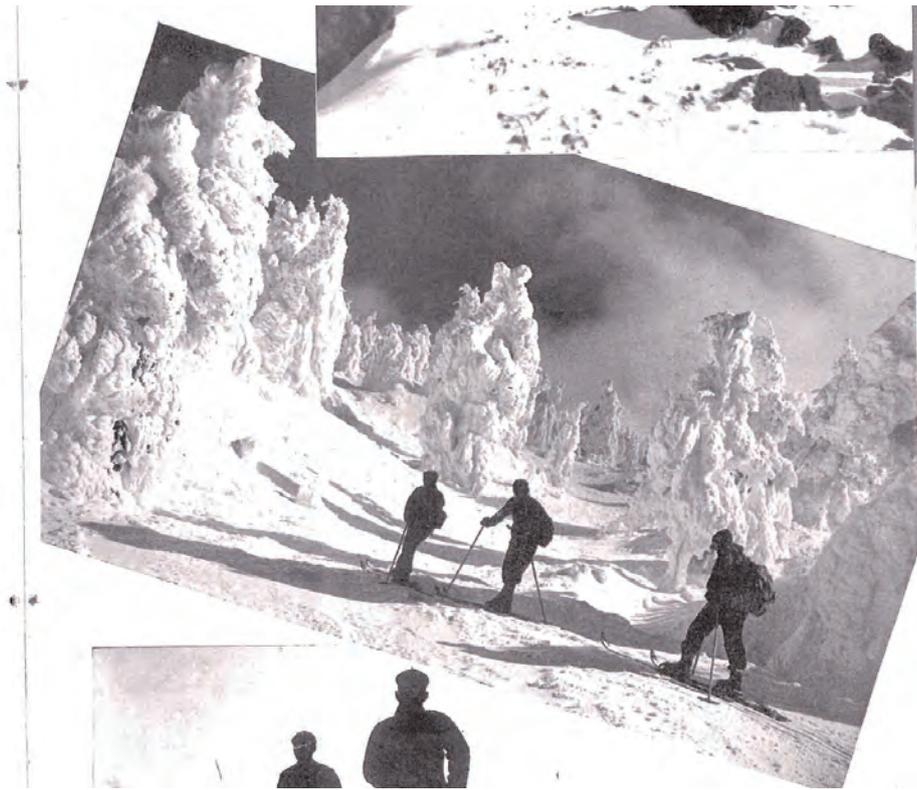


図7 アサヒカメラ昭和11年2月号(塚本閣治撮影)



図8 絵葉書(今泉正路)

3. 高山英夫氏について

高山英夫氏の長男である高山治男氏によりますと、昭和10年当時、高山英夫氏は大阪に居たとのことですので、映画の撮影には参加できません。従って、切手や絵葉書の人物は高山英夫氏ではないと結論されます。

なお、塚本・今泉と類似性のある生写真が残されていました（図10・図11）。撮影者は佐藤定男氏（吉野屋絵葉書店の店主）と考えられます。これらは、塚本・今泉と樹氷の形、影、アングル等が違っていることなどから、塚本・今泉の撮影とは時期が異なると判断できます。

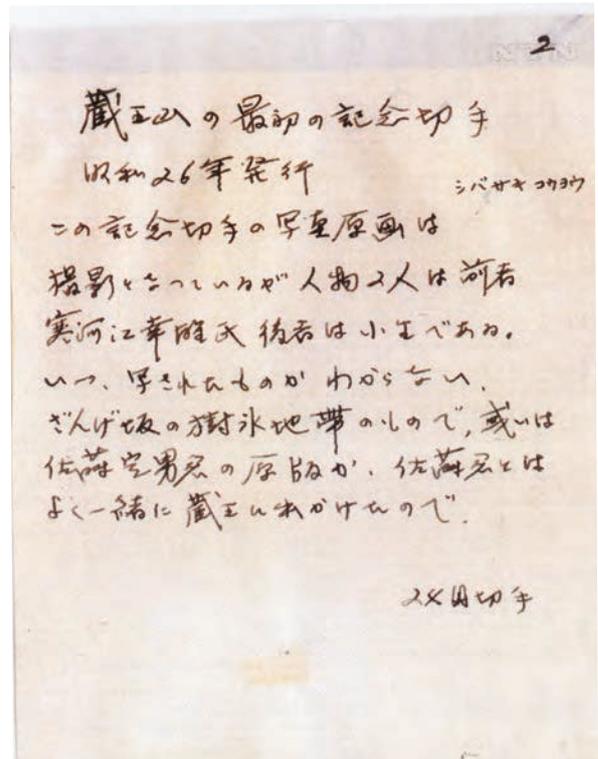


図9 高山英夫氏のメモ

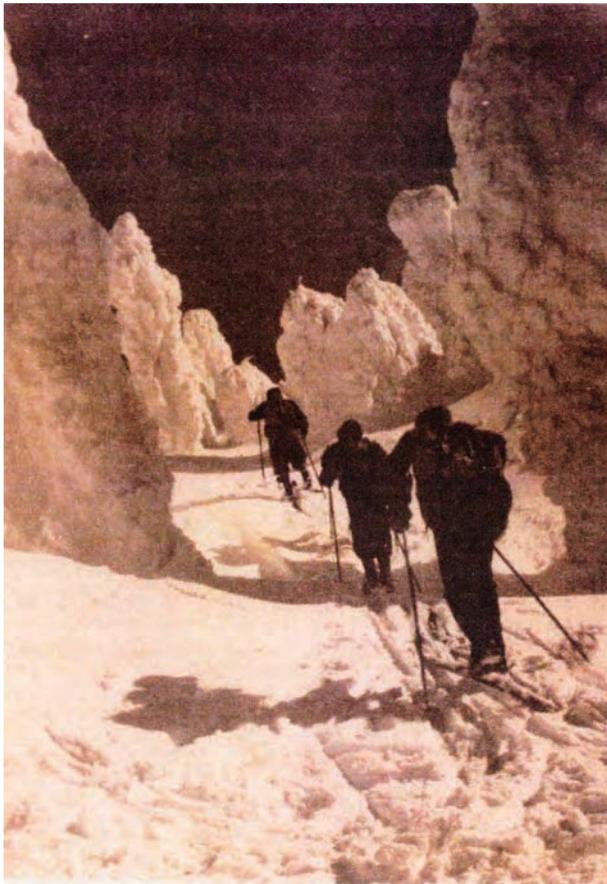


図10 高山英夫氏の写真（1）

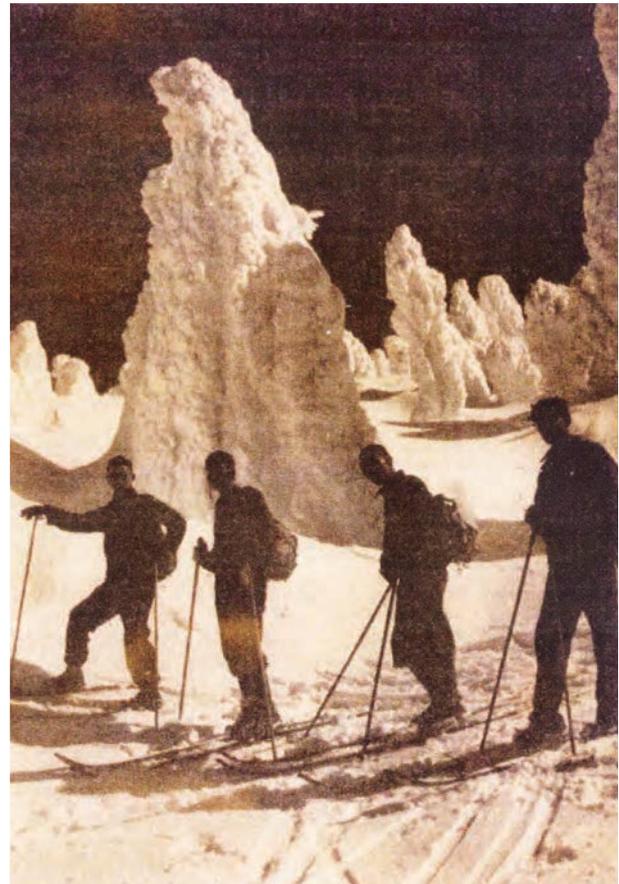


図11 高山英夫氏の写真（2）

		塚本開治	???	今泉正路	あらすじ等
昭和10年	2月	コーポルトヒュッテに滞在して映画撮影(伊東五郎 蔵王五十年の歩みとスキーの発達)			樹氷映画撮影 樹氷の最もよい二月に小型山岳映画の開拓者塚本開治氏、鉄道の今泉正路氏によって蔵王の樹氷が撮影された。この時の樹氷エキストラは岡崎忠君、佐藤伊工門くん、岡崎弥平君、堀清吉君等で縦横に駆使したのである。
		コーポルトヒュッテに滞在して写真撮影			
	3月	「蔵王山の樹氷風景?」(飯田心美 キネマ旬報1935年3号 塚本開治の作品を見る)編集が終わっていない? 弁士は塚本開治	-	-	蔵王山名物の樹氷を主題としたもので、これは山形から登山スキーの一行が出発するところから始まっている。まず一行は、蔵王山麓の最高湯に辿り着く。天候険悪のため、その回復を待つこと三日、雪の坂道を滑る街の子供等のソリ遊びを見物したりして、四日快晴の朝の冷気をついて温泉地を発足、蔵王山に登るのである。風の強いことをもって名高いこの山は、冬季に入るとともに全山に散在する針葉樹を降り積もる雪と一つ残らず凍らせてしまふ。北海道に行っても見られないといふ奇怪なる景観がここに展開される。綿帽子をかぶった大入道のやうな樹氷の點在は、さながらお伽噺に出て来る魔物の國のやうだ。見れば見るほど魁偉な形相、或るものは地にうづくまり、或るものは空を仰ぐ、グロテスクな樹氷の列は見違すがぎり遅なくつついている。...それら怪物の群像を縫って一行のスキー滑走が始まるのである。スキーを組み立てて椅子の代わりに休む場面、樹氷に衝突して自分自身が雪だるまとなる場面、これは山岳映画の大家アーノルド・ファンクにも見せて喜ばせたいくらいの特異な写真だ。
7月			今泉正路「白魔は招く」(? 山と溪谷 昭和10年7号 映画の頁)	今泉正路 鐵道省の電気局にいる技術者である。さくら小型映画会やオリエンタルシネマ協会の幹事で比較的固い写真をとり人だ。最近の作品に「白魔は招く」と云ふらしい題名の写真があるが、これは半郷から馬そりて高湯に至り、コーポルトヒュッテを経て粉雪立ち上る春の蔵王山を撮ったもので、帰途土地の青年が名物のオバケ餅の中を縫って粉雪をあげる素晴らしい場面がある。	
		「科学知識」主催の会で上映された塚本開治監督作品8編の中で「妖精が踊るという蔵王の樹氷」の映画を見た(栗原章子 婦人文藝 昭和10年7号)	-		「科学知識」主催で国際的に有名な塚本開治氏の16ミリ作品を見た。伊豆沖海底の写真や、「妖精が踊る」という蔵王の樹氷。大白鳥の飛来等八編(栗原章子 婦人文藝 昭和10年7号)
昭和11年	1月	昭和10年に蔵王で撮影した「蔵王山樹氷群」が、アサヒカメラ主催の「冬山とスキー写真展覧会」で展覧されると共に、アサヒカメラ昭和11年2号の冬山とスキー写真傑作集に掲載された。	-	-	-
	2月	「蔵王の樹氷」等の小型映画をアーノルド・ファンクに見せる(山と溪谷 昭和11年 塚本開治)	-	-	-
	3月19日	-	-	コーポルトヒュッテに滞在して写真撮影。昨年2月にもコーポルトヒュッテに滞在して「白魔は招く」を撮影とコーポルトブーフに記載	今泉正路(東京鉄道省)・三井高乘(東京)・藤村敬(東京)・清水丈典(秩父)・柴崎高陽(上田) 昨年2月「白魔は招く」を撮影に来たのも此のヒュッテ今度又白魔に招かれて来たが樹氷が先日雨のため落ちて終わって少々ヒカン今朝少し日が照り出したので高湯を出たが又ガスに包まれて風も相当(約7m)で今日は撮影出来ないで二日位又此のヒュッテにお世話になる 高湯青年団の方に五六名出場してもらおう可一所に来たが今日は一先づ引上げ明日又此のヒュッテに来る約束である。あした天気になるように。
	11月	「Mount Zao」がロンドンで開催されたアマチュア映画協会主催の国際映画競技会に出品される	-	-	-
	11月27日	-	-	東京小型映画協会第33回例会で上映(日本映画情報システムによる)	-
昭和12年	2月16日	ロンドンで開催されたアマチュア映画協会主催の国際映画競技会で「Mount Zao」が優勝したことが吉田駐英大使より伝えられたが、国外持ち出し禁止のため優勝カップの写真のみが届く(アサヒカメラ 昭和13年3号)	-	-	-
	?	-	-	全日本バレー協会主催第6回国際コンテスト日本大会推薦作品(日本映画情報システムによる)	-
昭和10年代	-	-	-	昭和10年に撮影した写真が絵葉書となる	-
昭和21年	2月	白魔に追はれて(蔵王山) CAMERA 昭和26年2号	-	-	-
昭和26年	2月	昭和10年に撮影した写真が切手(蔵王山中腹の樹氷)となる	-	-	-
平成19年	10月	山形国際ドキュメンタリー映画祭で上映(監督:塚本開治、撮影:今泉正路)			山形蔵王ヘスキー登山に訪れた一行は、悪天候で高湯温泉に逗留を余儀なくされながらも、やがて迎えた快晴に喜び、樹氷の生い茂る蔵王の雪山を滑走する。(山形ドキュメンタリー映画祭 公式カタログ)
平成20年	-	-	未公開?	-	蔵王を訪れた一行は、悪天候で温泉に逗留後、蔵王で滑る。